

〈研究成果の紹介〉

全国卸売業者の青果物取り扱い(入荷・セリ)実態とその特徴

農業研究部地域経営グループ

1. 成果の内容

卸売市場の青果物流通は、量販店の影響を強く受けて地場産品の取り扱い重視や取引形態の変化が進む一方、卸売市場基本方針などで取引の透明性確保、相対取引範囲の弾力的拡大、集荷販売力の強化などが目標とされています。このため〈1〉産地からの青果物直接入荷(転送を除く)割合、〈2〉直接入荷量に占める県内産などの地元産青果物の割合、〈3〉青果物取引における実質セリ割合などが青果物卸売業の要点の一つになっております。しかし、これら取引等の実態は卸売業者のデータとして全国的把握が十分に行われていない状況でした。そこで、個別卸売業者の青果物取り扱いに関する全国的な位置や特性が数値として把握できる分析を行いました。

まず、全国の青果物卸売業者を対象に青果物直接入荷割合、地元産青果物割合、実質セリ取引割合によって卸売業者を順位付けし、全国的な位置が視覚的に把握できる図表(下図)を作成しましたが、卸売業者の青果物取り扱いが多

様であることがわかりいただけると思います。

さらに、これらデータを基にクラスター分析によって同じタイプのもを集めたところ、中央卸売市場では直接入荷割合が高く地元産が低い「地元産低率型」、直接入荷割合だけが高い「地元産・セリ低率型」、各項目とも比較的割合の高い「高率バランス型」に類型化できました。また、公設地方卸売市場はセリ割合だけが低い「セリ低率型」、民営地方卸売市場は各項目とも割合が低い「低率バランス型」の類型が特徴でした。

2. 技術の適用効果と適用範囲

行政指導などの場面で、対象となる卸売業者の青果物取り扱い実態を個別に把握すれば、各青果物取り扱い割合の全国的な位置や数値比較、タイプ(類型)などが簡単に検討できます。

3. 普及・利用上の問題点

分析した3項目の割合は、卸売業者によって調査票に記入された概数として捉える必要があります。

(大泉賢吾)

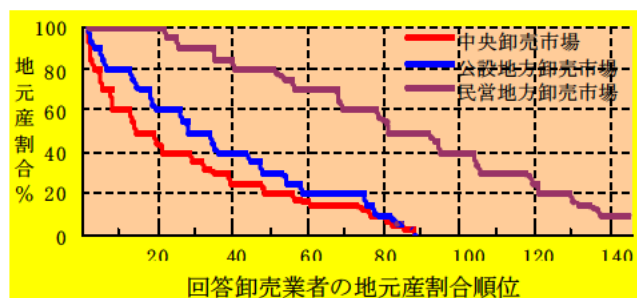
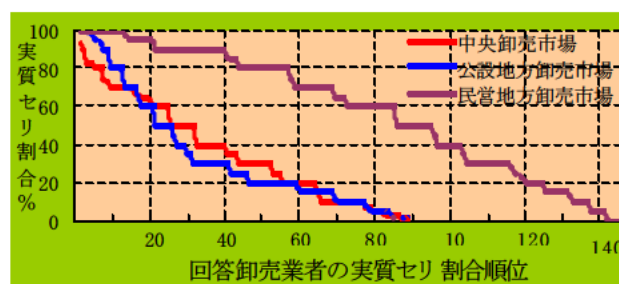
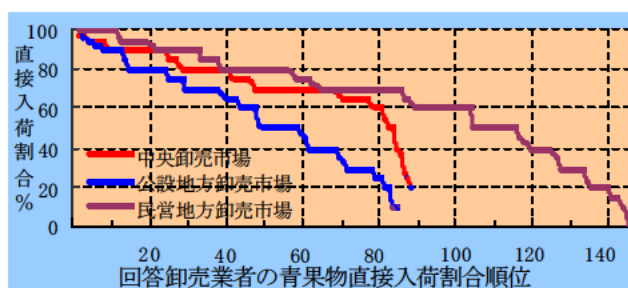


図 卸売市場形態別の卸売業者青果物取り扱い実態とその順位

注：全国の中央卸売市場の卸売業者112社、公設地方卸売市場151社、民営地方卸売市場679社に郵送し、それぞれ88社、84社、145社の有効回答データに基づき順位付けしています。